

31H 高 いおり 33H 不動 友渚 34H 馬場 天柊
34H 川向 優心 35H 稲原 智祐 36H 柴野 恭輔

■課題

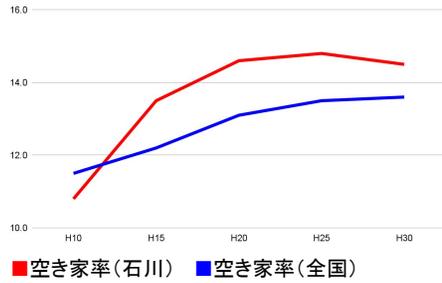
能登の空き家の増加と流出する人口の増加

■解決策

空き家を利用しコワーキングスペースを開設する

■現状①

<能登の空き家の数の増加>



空き家率が全国に比べて高い

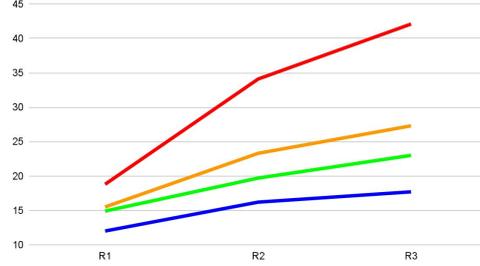
図1 石川県の空き家率の推移
表1 空き家数(千戸)

	H25	H30
石川	76.9	77.8
能登	15.9	20.2

石川全体と比べると能登の方が増加率が大きい

■現状②

<テレワーカーの増加>



■首都圏(18.8%→42.1%)
■近畿圏(15.5%→27.3%)
■中京圏(14.9%→23.0%)
■地方都市圏(12.0%→17.7%)

図2 就業者の住所地域別雇用型テレワーカーの割合

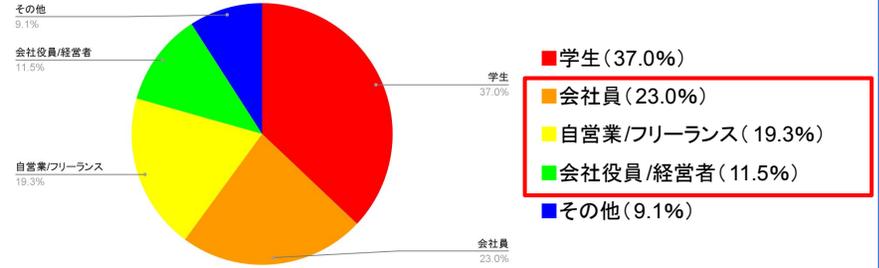


図3 職業別コワーキングスペース 利用者の割合

■現状③

<コワーキングスペースの認知度>

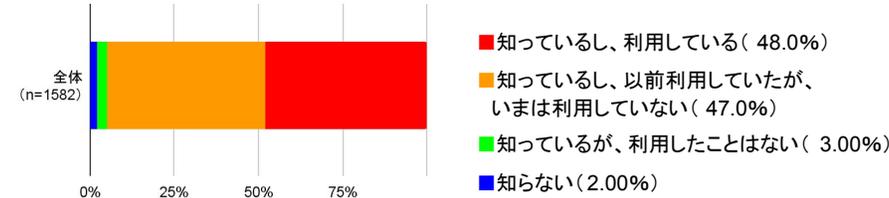


図4 コワーキングスペースの認知度

そもそもコワーキングスペースとは??
Co(共同で) Working(仕事をする)

コミュニケーションを通じて情報や知恵を共有しながら仕事を行う空間のこと

■効果

【空き家の効果】

- ・低コスト
- ・大規模な修繕の必要なし



<https://work-and-wonder.com/column/archive/40/>



【作業場の効果】

- ・家庭内の電気代削減
- ・周囲の人の影響でモチベーションup
- ・通勤しないでも大丈夫

コミュニケーションを行いながら仕事ができる

↓
他業種との関わりが増える

↓
地元の雇用が増える

↓
上京するような人たちを地元で留められる

↓
地元の活性化

■参考文献

図1 平成30年住宅・土地統計調査の概要住宅及び世帯に関する基本集計 <https://toukei.pref.ishikawa.lg.jp/dl/3648/H30juutakusetai.pdf> (参照2023-4-14)

図2 令和3年度テレワーク人口実態調査-調査結果(概要) <https://www.mlit.go.jp/toshi/daisei/content/001471975.pdf> (参照2023-4-14)

図3 コワーキングスペースビーゴ会員の人気プランや利用目的、多い職業 https://www.vie-orner.com/be-go/b_featured/member-attribute-202112 (参照2023-04-14)

表1 e-stat 政府統計の総合窓口 <https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003334921> (参照2023-04-14)

図4 LINEが発表した「コワーキングスペースの現状と認知度」調査Work onの認知度が今後、高まっていくかをズバリ検証!
<https://workon.biz/blog/post-1687/> (参照2023-04-14)